

高校漢文教育の現状：大学入試との関連をめぐって

工藤，玄之
青雲高等学校教諭

<https://doi.org/10.15017/9594>

出版情報：中国文学論集. 33, pp.8-15, 2004-12-25. 九州大学中国文学会
バージョン：
権利関係：

高校漢文教育の現状

—— 大学入試との関連をめぐって ——

工 藤 玄 之

一、授業における漢文学習の概要

本稿では、現在の高校での漢文教育の一端を記し、大学入試問題の傾向がいかに高校の授業に直接的影響を与えているかを述べるが、まず私が勤務している高校（生徒のほとんどが大学への進学を希望している）の漢文学習の概要を説明しておこう。

私の高校の授業における漢文の学習は「漁夫之利」などの故事成語から始まる。これらを扱う際には、生徒が接する初めての漢文であることを踏まえ、漢文に興味を持たせるために、口語訳だけではなく、それぞれの故事の背景まで扱うようにしている。それは例えば当時の国家間の関係や思想的背景の説明であるが、そうすることで生徒は関心を喚起されるように思われる。また、これらの全文を音読し、暗記させ、漢文訓読のリズムに慣れさせるよう努めている。教科書掲載の故事成語は短文であり、「定期テストでは白文で出題する」と予告すると、生徒は否応無く何度も本文を読まざるを得ず、自然と暗記するようである。

史伝を扱う際には漢文特有の歴史観や思想が理解できるように工夫している。また、漢文訓読の習熟を図るといふ観点から、これらの教材に含まれる重要な句法を丁寧に、漢文法を詳細に教えることに留意している。漢文の苦手な生徒は、範囲が定められている考查の場合、ひたすら訳文（口語訳）を暗記して試験に臨もうとする傾向があ

るが、決してそのようなことをする必要は無く、文法に則り、漢字一つ一つの「訓み」に注意を払うことで訳出が可能になるとの実感と自信とを生徒に持たせるように努めている。

思想を教えることも漢文を理解する上では欠かせない。入門期に漢文への接し方がある程度学び、句法の演習を積んだ後に、それらの漢文の内容にどのような思想的背景があったのかを学ぶことは、その後の漢文の理解に有益となる。授業では、儒教から順に老荘思想や法家の思想を扱う。生徒は、意外にも抵抗感なくそれらの思想に親しみを抱く。「仁」「義」「礼」などの定義は簡単でなく、簡明に教えることは難しいのだが、生徒の中には、孟子の見事な修辭や老荘思想の「無為自然」にも、興味を示す者も少なくない。入試問題では思想の知識が無くては読解が困難なものがあるので、思想の基礎的な知識を生徒に教える必要があると考えている。

漢詩は散文に比べ、生徒にとって親しみ易くはあるのだが、正確な解釈となると心許無い、といった印象がある。生徒は、散文を口語訳するときとは異なり、言葉に適宜補わなければならないからである。そのためには漢詩を相対に読み慣れていなければならない。高校生が漢文に、いや、国語に割いている学習時間は短い。漢詩を読み慣れていない、そして多くを読む時間の無い高校生にとって、漢詩理解の一助とすべく、漢詩をその内容（「詠懐詩」「辺塞詩」等の区分を基本としたもの）によって分類し、それぞれの代表的な詩を挙げたプリントや、代表的な詩語の典型的なイメージを列挙したプリントを配布している。

また、年中行事に関する知識が漢詩読解の助けとなることは少なくない。「重陽節」や「寒食節」の知識がないと正解できない入試問題もある。年中行事には我が国の古典文学にも通用するものが多く、国語力、ひいては我が国の文化に対する理解の深まりも期待できる。

抽象的に、取り扱った詩の雰囲気だけを教える、或いは口語訳を示すだけの授業にとどまることなく、詳しく、具体的に多くの知識を与え、正確な知識に基づき、過不足の無い正確な解釈を心掛けさせることが大切である。そして何より生徒は、新しい知識に対して非常に興味を示す。多くの知識を詳しく教えることが生徒達の知識欲を満たし、漢詩漢文に対する取組みを積極的なものとするようである。生徒達が「面白い。もっと知りたい」と感じるなら、それは知識の「詰込み」にはならない。「詰込み」と感じさせない努力が教える側には必要である。

二、大学入試問題と高校漢文との関連

紙幅の都合上、今回は生徒の達成度を示すことと、大学入試問題についての私の考えを述べるにとどめる。ここでは平成十五年の九州大学（文学部以外の文系学部を対象）の入試問題（資料）及び、平成十四年の東京大学（文科受験生対象）の問題（資料）を用いて生徒（高三理系クラス四十三名）の到達度などを示したい。

まず、資料の問題について、授業での正答率を（）内に示し、適宜説明を加える。

問一（約四十％）不正解者は「つかふる」を「つかへる」や「つかえる」とした仮名遣いの誤りがほとんど。問二（約八十％）問三（百％）問四に関しては、七十％の生徒が正解しているが、設問の「意味を、わかりやすく説明せよ」がどの程度の解答を要求しているのか少し迷ったようである。ここでは主語を補い、「終身無難」の理由を加えることが求められているのであろう。その要件を満たした解答は二十％程度である。問五（三十％）「臣奚送焉」とのつながりが理解しづらかったようである。問六は大部分の生徒が正解に近い答案を作成していた。ただ、「送」字の解釈を生徒は「見送る」とし、また、予備校や出版社が発表した解答でも、私が確認できたものでは全て「見送る」と解釈していたが、この「送」字の解釈は「付き従う」ではないだろうか。もしそうであれば、語註をつけて頂ければ受験生には親切であったと思う。問七の書き下し文は、ほぼ全員の生徒が正解。問八については、正答率を示すことは難しいのだが、概ね予備校等の発表する正解に近い答案を作っていた。問九（過不足無く正解した者は約四十％）（イ）の屈原を選び損ねた者がほとんどであった。漢文の文学史は近年のセンター試験で出題されないため、生徒の意識は、特に理系の生徒のそれは稀薄になっている。文系に於いても、文学史を出題する大学は少ない。残念ながら生徒の取組みに甘さを感じる。

生徒にとっては、入試にいかなる問題が出題されるのかということも重大事であり、現場の教員もそれへの対応を求められる。大学入試問題の内容や傾向は高校の授業に直接的に反映される。例えば、マーク式問題が増えたと、記述式問題の練習には生徒も力を入れない。受験生にとっては、漢文を好きであるか否か、ということとは別次元

〔平成十五年度九州大学入試問題〕

齊侯問^ニ於晏子曰、「^①忠臣之事^レ君也何若。」対曰、「有^ル難不^レ死、出^ル国不^レ送。」君曰、「^②裂^キ地而与之、疏^シ爵而貴^ル之、君有^ル難不^レ死、出^ル国不^レ送、^③可謂忠乎。」対曰、「^④言^{ヒテ}而見^ル用、終身無^シ難。臣奚死^マ焉。諫^{メテ}而見^ル從、終身不^レ亡。臣奚送^{ラン}焉。若言^{ヒテ}不^レ見^ル用、有^{リテ}難而死、是妄死也。^⑥諫^{メテ}不^レ見^ル從、出^ル国而送、是詐為也。故忠臣也者、能^ク与^ル君

尽^ク善、而^モ不^レ能^ク与^ル君陷^ニ於難。」（『新序』雜事篇による）

〔注〕 齊侯Ⅱ春秋時代の齊の景侯。 晏子Ⅱ春秋時代の齊の大夫、晏嬰のこと。 難Ⅱ危難。 疏爵Ⅱ爵位を分け与えること。

問一、傍線部①「忠臣之事君也何若」を、すべてひらがなで書き下し文に改めよ。

問二、傍線部②「裂地而与之、疏爵而貴之、君有難不死、出国不送」の「与」「貴」「不死」「不送」の主語を、それぞれ次の中から

選び、その記号を記せ。（ア）君（イ）臣

問三、傍線部③「可謂忠乎」の現代語訳としてもっとも適当なものを、次の（ア）～（オ）の中から一つ選び、その記号を記せ。

（ア）忠と言ってもよいのでないか。（イ）忠と言うことができる。（ウ）忠と言うべきであろう。（エ）忠ではないと言うべきか。（オ）忠と言うことができる。

問四、傍線部④「言而見用、終身無難。臣奚死焉」の意味をわかりやすく説明せよ。

問五、傍線部⑤「亡」と同じ意味が使われている「亡」を含む熟語を、次の（ア）～（オ）の中から一つ選び、その記号を記せ。

（ア）興亡（イ）逃亡（ウ）亡国（エ）亡霊（オ）死亡

問六、傍線部⑥「諫不見從、出国而送、是詐為也」の意味を、わかりやすく説明せよ。

問七、傍線部⑦「不能与君陷於難」を、書き下し文に改めよ。

問八、晏子の考える「忠臣」とはどういうものか。八十文字以内で記せ。

問九、春秋戦国時代の人物を次の（ア）～（オ）の中からすべて選び、その記号を記せ。（ア）荀子（イ）屈原（ウ）玄奘（エ）李白

（オ）墨子（カ）朱子（キ）関羽（ク）韓非（ケ）韓愈（コ）司馬遷

〔小特集〕 高校国語科における漢文教育の現状と課題

の現実的な問題なのである。実際に理系の生徒のほとんどはセンター試験が終ると漢文は入試に不要となってしまう。生徒が自分の手で訓読を行い、解釈をするという作業をセンター試験では行わない。仮にセンター試験に漢文が課されなくなれば、多くの高校生にとって、漢文は全く入試に必要な無いものとなってしまふ。そうなれば、漢文の学力は間違いなく低下するであろう。センター試験には様々の批判もあるが、各大学の個別試験（二次試験）に於いて、文系学部でさえ漢文を課さない大学が多くなってしまつて今、センター試験の漢文が、高校の漢文教育にとつて「最後の砦」となつてしまつてゐる観がある。

資料 は平成十四年の東京大学の入試問題である。東大の問題は概して文章が平易であり、一読すれば大意は簡単に掴める。また、設問は、書下し文を要求したり、白文に訓点を施させる問題はない。訓読は多少不正確でも内容の把握さえできれば解答は作れることが多い。東大の問題については一般に次のような評がなされている。「本学では難解な文章は出題されない。教科書の復習を中心にする。訓読が問われることはまずないが、漢文を正確に素早く読むためには訓読に慣れておくことが必要である。漢文では平易な現代語に訳せという言い方をされる。本学の受験生のレベルを考えると標準的な問題だけに、ちょっとした表現の不備や説明の不明瞭さが致命傷となるので注意したい。」（『大学入試シリーズ 東京大学』教学社平成十五年）他の予備校などの受験参考書でも「文章は難解ではないが、設問に対する答え方は容易ではない」という見解は概ね同じである。参考までに問二と問四との生徒の解答を次に挙げる。問二（絵描き達に高い値段をつけて梅を売るために、真っ直ぐな枝を折つたりして曲げさせる者がいるから。）問四（曲がった梅の美しさを理解せずに、真っ直ぐに育てようとすると、風流を解さない人である、という非難。）

このような出題形式の場合、問題文の大意を把握することで解答を作成できる可能性がある一方で、解答を短時間で「まとめる」要約力が求められる。その一方で、訓読を習得すべく地道に努力を重ねた生徒が報われない、ということもあるかもしれない。高校で、正確に漢文を「訓む」ことを教えるべきと考える立場からすると、日々の授業の成果が反映される出題が望ましい。「答え方」が難しい問題よりも、正確な文法の知識や、それに基づく正確な解釈を問う出題の方が生徒にとつても学習に取り組みやすいのではないだろうか。生徒からも「話の流れから

〔平成十四年度東京大学入試問題〕

或曰、「梅以曲為美、直則無姿。以欹為美、正則無景。」此文人画士、心
 知其意、未可明詔大号以繩天下之梅也。又不_レ可_レ以使_中天下之民_ヲ斫直鋤正、以_二疾_レ梅
 病_レ、梅為_レ業、以求_レ錢也。有_下以_二文人画士孤癖之隱_一、明告_中鬻_レ梅者_上、斫其正、鋤_二
 其直、遏_二其生氣_一、以求_二重價_一。而天下之梅皆病。文人画士之禍_レ之烈_ニ、至_レ此哉。予
 購_二三百盆_一、皆病者、無_二完者_一。既泣_レ之三日、乃誓療_レ之。毀_レ其盆、悉埋_二
 於地_一、解_レ其縛、以_二五年_一為_レ期、必復_レ之全_レ之。予本_二非_二文人画士_一、甘_レ受_レ詬厲_一、關_二
 病梅之館_一以貯_レ之。嗚呼。安得_レ使_下予_多暇日_一、又多_中閑田_上、以_レ広_レ貯_二天下之病梅_一、窮_二予生之
 光陰_一以療_レ梅也哉。
 (龔自珍「病梅館記」による)

〔注〕明詔大号_一明らか_ニに告示する。繩_一一つの基準に当てはめる。疾_レ梅_一梅を若死にさせる。孤癖_一ひそかな愛好・奇癖。詬厲_一非難。

問一、「梅以曲為美、直則無姿」を、平易な現代語に訳せ。

問二、「文人画士孤癖之隱」が「天下之梅皆病」という結果をもたらすのはなぜか。簡潔に説明せよ。

問三、「予購三百盆、皆病者、無一完者」を、平易な現代語に訳せ。

問四、「予本非文人画士、甘受詬厲」とあるが、筆者が甘受する「詬厲」とはどのようなものか。具体的に説明せよ。

問五、筆者が「病梅之館」を開く目的は何か。簡潔に説明せよ。

〔小特集〕 高校国語科における漢文教育の現状と課題

なんとなく解けてしまうような問題ではなく、文法、句法からきちんと攻めていけるような問題を解きたい」との声が聞かれた。文学史も東大ではこの二十年程出題されていない。漢詩も姿を消しつつある。入試で漢詩が出題されないとなると、生徒の漢詩に対する姿勢が疎かになってしまふのではないかと危惧している。

ところで、高校生が家庭学習において国語に充てている自習時間は驚くほど少なく、数学、英語の半分か、それ以下である。受験生にとって国語の入試問題は、この程度の学習時間に対応できるもの、と考えられているのかもしれない。或いは、特に現代文などは、勉強しても直ぐには点数に表れないためなのだろうか。教員の努力は勿論だが、入試問題の工夫によってもこのような生徒の意識を変えることは可能ではないかと考える。

三、受験の中の漢文

昨年（平成十五年）の九月、九州大学中国文芸座談会に発表の機会を与えられた。その発表の席上「漢文を味わう、楽しむ」ことと「受験勉強として漢文に取組む」ことが両立するのだろうか、との御質問があったので、この機会に卑見を述べておきたい。

結論から言えば、両立は可能であると考えている。受験に於いて漢文での高得点を望むならば、必然的に多くの文章や詩を読むことになり、その読み方も精密なものでなくてはならない。つまり多読と精読とを、受験生は行っていることになる。それは大学合格を目標としていたわけだが、その目標の達成を目指し、漢文に真剣に取り組むならば、必ずや彼らの人格形成の上に何らかの影響を及ぼすであろう。我々が大人になっても、嘗て教科書で習った和歌や漢詩、文語詩の一節を口ずさめるように、入試対策として扱った文章や詩を生徒達は自分の成長の糧として気付かぬうちに取入れているはずである。次のアンケート結果からは、その一端を窺うことができる。受験勉強と漢文を好きになることが相反することであると、少なくとも私は考えていない。

「漢文に対する生徒の修了後（高校三年十二月）の感想」

漢文を学習することで、中国の文化が日本に及ぼしてきた影響の一面を知ることができた。また、漢字一字一

字が持つ意味合いの深さというものを知ることでもでき、日本語という点から見ても、漢文は私に言葉を大切に
するということの大切さを教えてくれたと感じる。(文学部進学)

漢文とは古来より日本人によって研究され発展したもので、中国というよりも、もはや日本の文学である。漢
文の学習により、日本人の文学の才能の高さを思い知らされた。(経済学部進学)

私は初めて漢文の授業を受けた時、現代文より強く惹かれるものを感じて、今でも漢文が好きです。テストな
どに関係なく、漢文を勉強するのが本当に楽しくて、高一の時から補講を受けさせてもらいました。結局理系
に行つて二次試験ではいなくなつたけど、力になつたし、いいものを得られたと思います。(医学部進学)

漢文は句法などが多くて覚えるのはなかなか大変だけれど、内容としては古文などより面白い話も多くて分り
易かった。また思想などは、こんな考え方もあるのかと学ぶところが多かった。(法学部進学)

二年になって思想も勉強して、大分読めるようになると、老子や荘子の文章が面白くなった。日本とは違つた
変な話とかも多くて、問題を解くのと別、漢文を読むのは好きになつた。(法学部進学)

最後に、改めて言うまでもないことだが、高校生が漢文を学ぶ意義は、中国の文学や歴史、思想を学ぶためだけ
ではなく、それが我が国の文学、ひいては我が国の文化の理解に不可欠であるからだと考える。「中国文学」とし
ての側面からだけではなく、我が国の文化を支えた「漢文」を少しでも伝えたい、との姿勢で授業に臨んでいる。
その意味でも「訓読」の作業を大切にしたい。そしてその土台となる漢文法、及び文語文法をしっかり教えなけ
ればならないと感じている。英語でも翻訳できてこそ、その文章を理解した、と言える。漢文に於いては訓読が翻
訳の役割を担っている。多くの先人の訓読・注釈に敬意を抱きながら、その遺産を次代の若者に伝えていくことが、
高校教員である私たちの役目であると考えている。

(注) 『詩経』鄭風・大叔于田に「抑馨控忌、抑縱送忌」とあり、その「縱送」について『毛伝』には「發矢曰縱、縱禽曰
送」と説明している。この「送」字は「後を追う」の意で用いていると考えられ、本問での「送」字も「見送る」で
は文脈上、意味が通じにくく、この「後を追う」(ここでは「付き従う」)の意で解釈するべきであると考える。